

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503510		
法人名	医療法人 中山会		
事業所名	グループホーム夏桜		
所在地	札幌市厚別区青葉町16丁目2-26 1階はる風		
自己評価作成日	平成28年10月1日	評価結果市町村受理日	平成28年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流が盛んで事業所行事や災害時には、地域ボランティアのサポート体制ができています  
今年度は、地域交流会を開催し地域の皆様と一緒に歌を歌ったり、施設内を見学して頂いたりして親交を深め築いている  
又、地域行事にも参加する等、双方の関係が築かれている

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170503510-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170503510-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成28年10月21日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム夏桜」は、バス停から数分の閑静な住宅地に立地している。四季を身近に感じることができる自然豊かな地域で、建物内も開放感があるゆったりとした造りになっている。食堂と独立した居間他、ソファとテーブルを配置したフリースペースがあり、各利用者が好きな場所でゆっくり寛ぐことができるように工夫している。2階は吹き抜けになっており、明るい光が居間に降り注いでいる。ホーム長は、計画的に内部研修を行いながら職員の資質向上に前向きに取り組むと共に、職員の提案や要望を聴き取りながら働きやすい職場環境整備に努めている。全職員で各利用者の残存能力を把握しながら、歌やパズルなどの活動を積極的に取り入れて生活に張りを持たせ、機能低下につながらないように工夫した支援を行っている。地域の「いきいきサロン」や事業所の「地域交流会」などを通して活発に地域住民と交流を深めている。また、ボランティアの支援により散歩や外出行事なども行っている。ベランダや前庭で外気浴をしたり、花や畑の作物を見学するなど、身近な環境を活かしながら外気に触れる機会を多く取り入れている。ホーム長を中心に、一人ひとりに親身に寄り添う職員の姿は、利用者や家族の安心感につながっている。利用者は、明るい笑顔で会話を交わしながら家庭的で穏やかな生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階はる風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を階段の踊り場に掲示し、毎月のカンファレンスの中で斉唱している。理念に基づき部署目標を全職員で作成している。又、毎月のカンファレンスの中で進捗状況を評価している	法人理念を基に作成した事業所独自の部署目標戦略項目に「地域との連携」と明示している。事業所内の要所に掲示し、地域交流会でも理念について説明している。職員は、部署目標の達成評価を行う時にも内容を再確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会、地域福祉推進協議会に加入し、総会、交流会に参加。いきいきサロン等地域行事に入居さんが参加。地域ボランティアさんが月1回来訪される等相互に交流がある	事業所で年1回地域交流会を開催して、歌をうたったり茶話会をして交流している。地域ボランティアの方と一緒に、散歩に出かけたり食事をしている。近隣から花や野菜のお裾分けをもらうこともある。下野幌神社のお祭りで子供神輿を見学している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に於いて、年1回認知症の事例検討会を実施している。又、推進会議の中で年間テーマを作成して2ヶ月毎に実施する等、地域の方やご家族に支援を仰いでいる。年間3回の広報誌を発行している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催。地域包括職員、町内会長、民生委員、地域ボランティア、消防団員、ご家族に参加頂き、その中でサービスの実際、取り組みを報告し頂いた意見を質の向上に活かしている	年間テーマを設定して、事例検討や講話などを取り入れている。消防団員から地震時の対応や防寒対策用品、非常用食品などを見せてもらい災害対策に活かしている。参加できない家族の意見も事前に聞き取り、会議に反映させたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の研修会やグループホーム管理者連絡会等に参加している。不明な点がある時は、管理者が市の担当者に問い合わせる等、協力関係を築くよう取り組んでいる		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について内部研修を行い、全職員が学んでいる。禁止行為11項目を掲示して職員が理解できるよう取り組んでいる。現在玄関は、入居さんのリスクの面から運営推進会議、ご家族の同意を得た上で施錠している	法人共通の「高齢者虐待防止マニュアル」を整備して内部研修を実施している。法人の不適切対応マニュアルに沿って毎日数項目を唱和しているが、禁止行為11項目を職員が十分理解しているとは言えない。危険防止の面から家族の意向でオーバートーブルを使用しているが、経過観察記録の記載と同意書の更新が行われていない。	年1回は、禁止行為11項目について全職員で再確認するよう期待したい。また、止むを得ず身体拘束を行う場合は、同意書を作成して経過観察記録も記入し、定期的に同意書の更新を行うよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人虐待防止マニュアルを毎朝唱和している。各階に2名虐待防止委員を置いている。内部研修も実施している。管理者や職員間で日々ケアの中で、虐待が見過ごされぬよう注意を払い防止に努めている		

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階はる風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については内部研修を行い、全職員が学ぶ機会を持ち活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書を渡して十分な説明を行い、同意を得ている。又、不安や疑問点があれば十分な説明を行い、理解・納得が得られるように努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に於いて、意見を頂く機会を設けている。毎月発行の夏桜便りに、ご意見・ご要望を頂けるよう呼びかけを載せている。サービス担当者会議に於いても伺っている。玄関に意見箱を設置している。年1回、ご家族アンケートを実施し結果を運営に反映させている	利用開始1ヵ月後に家族と面談をして、利用者の状況を伝えながら意見や要望を聴き取っている。また、家族の来訪時に課題があれば相談して意向を聴いている。家族からの些細な意見も個人記録に記載して職員間で情報を共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、定期的で開催しているカンファレンスの中で運営に関する職員の意見や提案を聴く機会を設けて反映させるよう取り組んでいる。年1回、職員の個別面談を実施し、率直な意見等を聞くように努めている	ホーム長は、日頃から職員の意見や提案を運営やケアに反映させて働きやすい職場環境整備に努めている。管理者を中心に、研修や虐待防止、広報や行事などの係を各職員が担当して運営に積極的に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	SUS(ステップアップシステム)シートを導入して職員個々の実績や勤務状況を把握し、昇給・やりがい等各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に参加できるよう機会が確保されている。又、外部研修にも参加している。月1回、内部研修を実施、年間テーマを立てて取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、北海道認知症高齢者グループホーム協会に加入しており、連絡会や勉強会に参加している。職員は厚別区グループホーム合同研修会に参加して交流を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階はる風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けている。センター方式を活用して更に本人の思いを探りながら安心した生活ができるよう、関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、不安を取り除けるような関係作り努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が、「その時」必要としている支援を見極め対応するように努めている。又、必要時には他のサービスも含めた対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人を「人生の先輩」として敬う気持ちを持ち、介護する側の一方的な立場ではなく暮らしを共にして支え合う関係を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、本人の様子を「便り」で伝え、誕生会や行事の参加を呼びかけている。受診時には同行をお願いしたり、来訪時には様子を伝えている。又、必要時にはサービス担当者会議を開催して共に支えていく関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の訪問は自由にして頂いている。家族と外食に出掛けたり、お盆の墓参りにも行って頂いたりして、ご本人がこれまで大切にしてきたものとの関係が途切れないように努めている	毎週、仕事関係の友人が来訪する利用者もいる。また、学生時代や趣味の仲間などが時々訪れることもある。家族が代筆して、友人と手紙のやり取りを継続している利用者もいる。職員と一緒に買い物に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握した上で、利用者同士が関わりあい、支え合えるような関係が作れるように配慮しながら、支援するように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階はる風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も入院先に見舞いに行く等、関係の継続に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や、表情、行動等から思いや意向が把握できるよう努めている。本人から希望や思いを聞き本人らしく生活できるよう取り組んでいる。本人本位に検討している	表情や仕草などからも把握が困難な時は、家族に確認しながら本人の思いに寄り添っている。年1回アセスメントシートに追記しているが、趣味や嗜好などの記録用紙の更新は行われていない。	現状が把握できるように、「暮らしの情報シート」などを定期的に更新し、情報を蓄積していくよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用されていたサービス担当者からの情報を頂く。サービス担当者会議、ケアプラン更新時に家族から伺う。日常の関わりの中で、本人からの会話等を通して把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「暮らしのシート」「記録シート」に毎日記録を残し必要時には、「個人ノート」に記入して申し送りで情報を共有している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで、モニタリング表を基に本人の生活満足度、新たな課題の有無、適切なケアができていのか等を話し合っている。サービス担当者会議、ケアプラン説明時に家族からの意見や要望を聞き、現状に即した介護計画を作成している	来訪時やサービス担当者会議で家族の意向を確認し、介護計画に反映させている。日々の「ケアプラン実施表」や「暮らしの様子シート」を基に、担当職員を中心に全職員で評価を行い3ヵ月毎に介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「暮らしのシート」「記録シート」に毎日記入し、申し送り等で情報を共有している。変わった様子があればカンファレンスで対応を話し合っている。ケアプランについては実施表で毎日確認し、カンファレンスでモニタリングしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関と連携して利用者の健康管理を行っている。必要に応じて通所リハビリ、訪問歯科受診、訪問理美容等の各種サービスに繋げている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域の一員として安全で豊かな暮らしを楽しめるよう、町内会、地域ボランティア、民生委員、消防団、地域包括センター等の協力を得ている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回、母体協力病院からの訪問診療を受けているが、かかりつけ医は本人・家族の希望を大切にしている。他科受診が必要になった際には希望に沿い紹介を支援している。状況により受診に職員が同席する等、かかりつけ医との関係を築く取り組みをしている	専門医やかかりつけ医を家族と受診する時は、温度版や普段の様子などを記録して持参してもらっている。受診時は、「情報提供書」で母体の協力病院と受診先の医師が情報を共有している。受診結果は、「医療機関受診記録」に個別に記録している。	

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階はる風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、母体協力病院から訪問看護師が訪問して健康管理をしている。体調に変化があれば相談し、指示を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、安心して治療ができるように情報提供を行っている。又、早期に退院できるように職員が面会に訪れ、病院関係者や家族と情報交換を行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「医療連携体制に関する指針および重度化指針」を示して説明し同意を得ている。重度化した場合や終末期のあり方については家族の意向を大切に、かかりつけ医、訪問看護師と共に支援に取り組んでいる	利用開始時に、重度化指針に沿って医療行為などが必要になった時は対応が難しくなる旨を説明している。体調変化に応じて事業所と主治医や家族で方針を話し合い、母体病院の「医療連携室」で退去後の施設などの相談にも応じている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、防災協会から担当者を招き、普通救命講習を受けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導を受けながら職員、利用者、地域の方が参加する自主防災訓練を年2回実施。防災設備の点検シートを作成し、毎日確認。自動火災通報装置から職員や地域の方に連絡がいくように設定、職員の連絡網の作成。防犯に係る安全確保に向け、不審者侵入の訓練を警察署に依頼する	消防署の協力を得て、年2回夜間の火災を想定した避難訓練を実施している。内1回は地域住民も参加している。災害備蓄品を整備し、毎年「救急救命訓練講習」を事業所で実施している。地震時の具体的な対応や水害時の対応について、職員間で再確認したいと考えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇やプライバシー保護について研修を通して学び、入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている	法人全体の意識改革で、名字に「さん」づけて利用者の呼び方は統一している。介護記録等はカウンター内で記入し保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日の洋服や日課、誕生日の献立を選んで頂く等本人の思いや希望を引き出せるような会話を心掛けている。言葉で表現できない方には表情・行動から読み取るよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けはするが、体操、レクリエーション、入浴等、その日の活動に参加は自由である。一人ひとりのペースを大切に、体調・希望に沿って柔軟に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と共に清潔で季節に合った洋服選びができるように支援している。訪問美容では希望により、カット、毛染め、パーマ、髭剃りも利用頂いている。行事の際には化粧する等おしゃれができるよう支援している		

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階はる風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	材料の下ごしらえ、コップに水を入れる、テーブル拭き、湯呑拭き、配膳膳をして頂いている。食事中は音楽を流し、会話をしながら楽しく食事できるよう努めている。	食材業者を利用しているが、月に数回はお楽しみメニューで食べたいものを選んでもらい、変化をつけた内容で提供している。季節の行事や誕生日、おやつ作りや外食など職員と一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分摂取量をチェック表と「暮らしの様子シート」に記入し確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・うがいの声掛けをしている。夜間は義歯を洗浄剤で消毒しお預かりしている。食事中の様子に変化や口腔内に変化があった時には、家族に連絡し、歯科受診に繋げている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	「暮らしの様子シート」に排泄チェックをしながら一人ひとりのパターンを把握し、声掛け、誘導をしている。歩行が不安定方に対しては、夜間は居室にポータブルトイレを置き自立を支援している	自立している人は全体の1/3程度であり、声かけが必要な人は排泄の記録をつけている。手引きや優しい声かけでトイレへ誘導し、自然排泄を促している。朝食時に牛乳、ヨーグルトを提供し整腸管理をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の及ぼす影響を理解しており、献立に沿って(野菜中心)調理している。十分な水分摂取ができるようお茶の他、スポーツドリンク、朝食前に牛乳(週2回はヨーグルト)を提供している。毎日体操したり、散歩等で体を動かすことができるよう支援している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には2、3日おきに、主に午後入浴されている。断られた場合には無理にはお誘いせず時間を変える、声掛けを工夫する等して気持ち良く入浴して頂けるよう努めている。楽しく入浴できるよう会話にも工夫している	毎日、午後に3名程度が入浴している。拒否がある場合は「体重計に乗りましょう」と誘導し、気分を変えてスムーズに入浴できるように話しかけたり、翌日に変更して清潔維持をしている。入浴しながら声を出すことで機能回復にも役立っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活週間を把握し昼寝の習慣がある方、眠そうにされている方には休憩よう声掛けをしている。夜間、寝つけない方には、お話を傾聴したり、居室の環境を整え、安眠に繋げている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルを作り、最新の薬情を管理して確認している。薬の変更があれば個人ノートに記載して情報を共有し、経過を観察している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理が得意、歌が得意、文字を書くのが得意、編み物が得意、外出が好きの方、一人ひとりの生活歴や力を活かせる役割、嗜好品、楽しみごとなど、気分や体調に合わせてできるよう支援している		

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階はる風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、ベランダに出て歌を歌ったり、近くの公園まで散歩に行っている。外出行事が年間4回予定されており、家族や地域のボランティアさんも参加して頂いている。町内会主催の盆踊り、バーベキュー行事等に参加している。法人主催の夏祭り、のど自慢、敬老会にも参加されている	日々の散歩や買い物の他に、外出行事でビール工場、道立博物館、動物園、紅葉狩りに出かけている。ベランダやテラスでの外気浴など、屋外で気持ちよく過ごす時間を作っている。冬期には初詣に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお小遣いを預かり自由に使えるよう支援している。初詣に行った際には、お賽銭、おみくじに使う等されている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方には、職員が取り次いでいる。手紙が届いた時にはお渡しし、家族にも伝えている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節感を感じられる飾り付けを入居者さんと共にしている。昼食時には、ゆったりできるような音楽を流している。居心地良く過ごすために照明・換気・冷暖房をこまめに調整している。	ゆったりと寛げる居間で、大きなテレビの前にソファを配置し、いつでも好きな場所で自由に過ごすことができる。カレンダーや大きな日めくり、季節の飾りや鉢植えもあり適温に保たれた共有空間になっている。窓から見える木々の景色で季節感を感じながら過ごせる家庭的な雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間とワークスペースの2ヶ所にテーブルとソファ、テレビを置き、独り又は気の合った入居者さん同士で過ごせるよう環境を整えている。新聞・雑誌・歌詞カード・トランプ・かるた・パズル・オセロ・将棋等を置き自由に使えるようにしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談して使い慣れた椅子やテーブル、タンス等の家具を居室に置き、本人の手作りの作品などを飾っている。小さな仏壇を持参され、声掛けで毎日お茶とお水をお供えしている方もいる	使い慣れた家具やテレビ、家族の写真やポスター、趣味の品に囲まれた部屋に温湿度計もあり、快適な環境で安心して暮らせる部屋になっている。居室入口は、フェルトの手作り達磨や小動物のポスターで自室がわかるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、バリアフリーになっており、廊下・トイレ浴室には手摺りを設置している。トイレ、浴室は解りやすく表示している。居室には表札や写真等を這って目印つけている。危険な刃物や洗剤等は目につく所に置かない、夜間は高い棚に置く、施錠して保管する等安全な環境作りに努めている		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503510		
法人名	医療法人 中山会		
事業所名	グループホーム夏桜		
所在地	札幌市厚別区青葉町16丁目2-26 2階そよ風		
自己評価作成日	平成28年10月1日	評価結果市町村受理日	平成28年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流が盛んで事業所行事や災害時には、地域ボランティアのサポート体制ができています  
今年度は、地域交流会を開催し地域の皆様と一緒に歌を歌ったり、施設内を見学して頂いたりして親交を深め築いている  
又、地域行事にも参加する等、双方の関係が築かれている

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170503510-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170503510-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年10月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「大切な命を元気で楽しい命に」と5つの基本方針の心得を全体会議で毎月斉唱して職員個々が周知している基本理念を基にした部署目標の毎月の実行とフォローも全体会議で話し合い確認し実践に繋げている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	積極的に地域行事(ピアノコンサート、盆踊り)参加町内会に加入し、毎月地域からボランティアの訪問がありホームの行事(花見、紅葉狩り、初詣等)に参加して下さる		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の皆様との交流会を開催し地域の皆様を招き認知症の人の理解を得て頂くよう努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で年間テーマを作り認知症の事例検討、構成委員方から講話等取り入れているご家族様には毎回開催案内を送付し、運営推進会議の議事録も送付している		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからないことがあったら電話で相談している また年3回札幌市管理者会議にて札幌市介護保険課より重要事項等説明を受けている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間の内部研修に身体拘束に関する研修を取り込んでいるご家族様の要望で車いすにオーバーテーブルを付けている方には毎月のユニット会議の中で必要性について検討している又、3ヶ月毎のケアプラン更新時にご家族同意を得ている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について外部研修に参加し、研修を受けた者が内部研修で勉強会を開催している また法人主催の虐待行為マニュアルを毎朝全員で唱和している		

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修予定表に権利擁護や成年後見制度を必修テーマとして取り組まれており成年後見制度はスタッフルームに掲示し活用できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書、重要事項を説明し疑問点や質問があれば説明し納得や理解を得る様に努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の夏桜たよりにて要望、意見を呼びかけたり運営推進会議、サービス担当者会議、ケアプラン説明時や毎月のお小遣い確認のため事業所に足を運んで頂き意見を聞く機会を設けている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議、全体会議をとおりて意見交換をし、年1回は面談を設け職員の意見を反映できるよう努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	SUSスキルアップシートに自己評価をして頂き働きやすい職場作り(希望休を取り入れたり、職員間での協力ができるように)に努めたり各自が向上できるように整備している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人からの新人研修から始まり法人研修、事業所での内部研修、外部研修を受ける機会があり働きながらも参加できるように努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は年数回同業者との会議の場を設けている。職員は年1回厚別区グループホーム合同研修に参加し、他施設職員と意見交換が出来る様に行われている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と面談で困りごと、不安、要望をお聞きし安心してサービスを利用して頂けるような関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様からの不安、要望をお聞きしご家族様が来訪時には利用者様の様子をお伝えし安心して頂けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様から思いをお聞きしご家族様の求めているサービスが利用できるかどうか他機関に相談したり、対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人を理解するように努め、出来る事はやって頂き、出来ない部分を支えられるような関係作りに努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に毎月1回お便りや来訪時には近況報告行事参加の声掛けさせて頂いている ご家族様にしかできない支援についてはお願いしご家族様、職員で入居者様の生活を支えている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が来訪された時は居室や共有スペースにご案内して心地よく過ごして頂けるように心がけている、また馴染みの友人から届いた手紙を代読している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者同士の関係を把握し(仲が良い、悪い等)レクリエーション、ゲーム等を通して仲介しながら会話など出来る様に支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必ず移転先に面会に行っている 近くに行ったときは立ち寄り面会させて頂いている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン更新時、モニタリングをし本人が望む生活が出来るよう努めている 日々の生活支援の中で本人の希望を把握するよう努力している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様、ご本人、担当職員(他施設から入所された場合)から情報を収集している 入居後も把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの様子シート、ケアプラン実施表、バイタル表を毎日記録し、職員全員が現状を把握できるよう努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3カ月毎のモニタリングで職員全員が話し合い意見を出している サービス担当者会議でご家族様との話し合いをし、ケアプランに生かすように努力している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	暮らしの様子シートに一日の生活の様子を記録している ケアプラン実施表で毎日確認している ケアプラン実施表は3カ月毎のモニタリングに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	モニタリングに重点を置き、本人に必要なことを職員全員で考え、訪問歯科、訪問理美容、訪問マッサージ等の各種サービスに繋げている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、地域ボランティア、民生委員、消防団等の協力を得ながら支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関である母体病院による毎月の往診があるがかかりつけ医の選択は自由であり、医療情報は個人ノートに記載し、全職員で共有している		

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所母体のパウロ病院の訪問看護師が毎週訪問して健康管理をしている 利用者には何か変化がある時は申し送って周知して看護師に相談し適切な指示を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院時には必要な情報を医療機関に伝えまた早期に退院できるように職員が面会に訪れ病院関係者、ご家族様と情報交換を行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に医療連携体制に関する同意書の中に重度化した場合の対応に係る指針を説明し、ご家族様、医療機関と相談しながら適切な医療を受けることができるように努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年防災協会に依頼し心肺蘇生法、AEDの使用法、のどに詰まった時の手当等の救命措置や骨折、出血時の応急手当等を訓練している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の自主防災訓練を地域の方や利用者も参加し実施している地域との協力体制も出来ており、有事を鑑みて不審者侵入の対策を警察署に依頼する等、防犯に係る安全確保に努めている		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段の会話は一人ひとり、その日の表情、体調等に応じて言葉の声かけをしている一人ひとりの尊厳を重視し利用者個々を姓で呼ぶよう取り組んでいる		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に声かけし自己決定を支援するよう心掛けている お話ができない方にはディスチャーや絵を活用して自己決定をして頂いている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の表情を見て察知し、タイミングを見計らって手を差し伸べるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、清潔に過ごして頂けるように清潔な下着、服等を身につけて頂いて、希望に沿って月1回訪問美容が利用できるように支援している		

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	決まっている食材であるがお楽しみメニューも取り入れている入居者様毎に量や食べやすい大きさに盛り付けている入居者様と一緒に食事の準備や後片づけもし残存能力を発揮して頂いてる		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量は毎日チェックして全職員で連携している体重が減ってきた方には軽腸栄養剤を摂取して頂いたり水分不足の方にはポカリ等でゼリーを作り食べて頂いてる		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後と就寝前に口腔ケアの声かけと介助を行っている義歯、口腔内にも異常がないかチェックし見つかった場合訪問歯科受診に繋げている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムとパターンを把握しスタッフ間で周知して声かけしたり、時間をみてトイレにお連れしている介助の際には他職員も含めプライバシーに配慮している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分は最低1000cc以上飲んで頂くように支援し、なかなか排便のない方には腹部マッサージを行ったり個別に薬で対応している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2、3回午後の時間帯で入浴されており、一番で入りたい方、最後に入りたい方にはできるだけ希望に沿って対応させて頂いている、入浴中はスタッフと会話をしたり発語練習をしています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早く入床されたい方には早めに布団を整えたり布団を温めたりしています又、ゆっくりしたい方にはテレビを見て頂いたり状況を見て気持ちよく寝れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルと個人の持ち出し袋には常に最新のものにして管理している、服薬自体も個々の状態に合わせてお盆と薬杯を用いたりしてしっかりと服用確認しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や好きな事を理解してスタッフ間で周知する家事の好きな方には家事を書き、事が好きな方には書写、外が好きな方にはテラスで外気浴して気分転換をして頂いてます		

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望にそっての外出はできませんが天気の良い日には散歩や外気浴を楽しんで頂いてる地域のピアノコンサート、ワンコインバーベキューに参加している、ご家族様と外食に行かれる方もいます地域のボランティアの協力も得て季節毎の外出している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からお小遣いを預かり、入居者様が訪問美容を利用したい時にお小遣いの中から出して頂いてる初詣にはご自分でお賽銭を出したり、おみくじが買えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話や手紙を書きたいと希望された時はできるように支援している又、届いた手紙を代読させて頂いている(字が小さく見えないため)		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く開放的でテラスがあるため暖かい日はテラスでお茶を飲んだり歌ったりしている壁には四季毎に飾り付けをし楽しんで頂いている入居者様の作品を展示する等、心地よく過ごせるような工夫をしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の他に長椅子を置いているスペースが2か所あり皆で談話やゲームをしたり、一人で新聞を読んだりと環境を整えている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は使い慣れた物を持ち込んで頂いてます、物によって危険になりそうな物やご本人が使いにくいような時はご家族様と相談して安心、安全に過ごして頂くよう工夫している温度、湿度調整も心がけている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで手摺りも取り付けしており一人ひとりに合わせた家事仕事等を安全に参加できるように見守りをしている		

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム 夏桜

作成日：平成 28年 11月 1日

市町村受理日：平成 28年 11月 7日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	○身体拘束をしないケアの実践	家族の意向によりオーバーテールを使用しているが、例外3原則に則る手続きが不十分である。状況観察・経過観察等の記録を残し、適宜、再検討を行う。また、家族に十分な理解を得たうえで定期的に同意書の更新を行う。身体拘束禁止等の内部研修を充実化する。	・オーバーテール解除に向けた支援内容をケアプランに取り入れて経過観察記録に残す。3か月ごとにモニタリングを実施する。家族には、ケアプラン更新時に十分な説明をしたうえで同意書の更新を行う。 ・内部研修「身体拘束禁止」の中に、禁止行為11項目等を全職員で再確認する。	1年間
2	23	○思いや意向の把握	入居者一人ひとりの思いや意向、趣味や嗜好の変化を十分に把握したうえで、その人らしいケアプランを作成する。	・モニタリング時に介護記録「暮らしの様子シート」を活用する。入居者一人一人の「本人本位の思い」「できること」「できないこと」等の変化を色分けして記録に残す。 ・年1回または著しく変化が生じたときには、「暮らしの情報シートB3」に状況変化を記録に残して情報を蓄積していく。	1年間
3	4	○運営推進会議を生かした取り組み	運営推進会議に参加できない家族意見を反映する。	・家族が来所したときや3か月ごとのケアプラン更新時に運営推進会議に参加できない家族への意見を聞きとるよう取り組む。	1年間
4	35	○災害対策	地震・水害時の災害対策と防犯対策に取り組む。	・年1回、地震・水害時の対策・シミュレーションを実施する。 ・防犯対策マニュアルを整備し、不審者侵入時の訓練を行う。	1年間
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。